

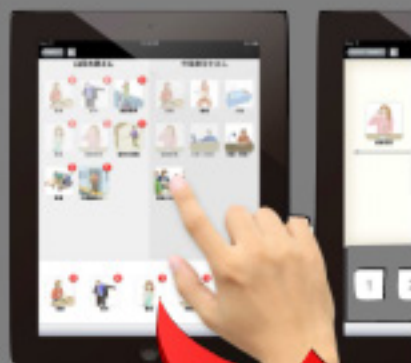
当院に在籍しているリハ職種は、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）の3職種ですが、一般的には「リハビリの先生、リハさん」として認識されていることが多いです。今回、Kリハ通信を通して、それぞれの職種がどのような位置づけでどのように日々臨床に取り組んでいるのか、その一部を紹介できればと思います。

当院における作業療法（OT）部門について

作業療法の“作業“は、ヒトの生活に関わる”諸活動のすべて“を指します。作業はヒトと社会をつなぐ接点であり、作業を通して豊かに生きていくことを支援していく職種がOTです。

昨年度より溪リハOTが力を入れてきたアクションの1つに「作業面接を活用した患者様の大切な作業の聴き取り」があります。これは、患者様の大切にしている事柄や行為についてヒアリングし、リハビリの目標を共有する際に活かしていく重要なプロセスです。

成果の一部を紹介 



A) 麻痺手で部品を固定し作業している様子

B) 担当作業療法士が作成した部品を固定する自助具とその使用例

C) D) で使用している自助具の機構：フレキシブルアームで空間で固定しクリップでパーツを固定

図2. 本事例がADOCで選択した趣味活動として実施したプラモデル作成の様子

当院の佐藤健太OTが、介助依存や発動性の低下から介入に難渋した入院患者様の目標設定をiPadアプリを用いて行った結果、本人の病前からの大切な趣味活動であるプラモデル作成の再開が抽出され、再開に向けた支援をきっかけに、本人の行動変容を認めた事例報告を学術誌へ投稿し掲載決定となりました!!

佐藤健太, 他: ADOCを用いたトップダウンアプローチを行ったことを契機に、介助に依存的な生活から自立した生活へ行動変容に繋がった事例
作業療法の実践と科学. In press

当院の作業療法士で手を取り合いながら、チームとして取り組んできました。振り返りからは、「作業面接を通じて支援内容の充実に活かした」といった手ごたえと同時に、目標を共有するプロセスの難しさも見えてきました。引き続き、OT同士でのつながりを強化しながら、幅広いニーズに対応できるよう専門性を高めていきたいと考えています。